

2022年3月2日
株式会社日本政策金融公庫**食に関する家事で最も簡便化したい工程は「献立の考案」が最多**

< 消費者動向調査（令和4年1月調査）特別調査：家庭での食の簡便化について >

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業は、「消費者動向調査（令和4年1月）」を実施し、特別調査として、家庭での食の簡便化について調査しました。

※ 本調査における「家庭での食の簡便化」とは、家庭での食に関する家事（献立の考案、食材の購入、調理、後片付け等）の全てまたは一部の工程で手間や時間を省くことです。

調査結果のポイントは以下の通りです。

○家庭での食に関する家事で最も簡便化したい工程は「献立の考案」が最多

家庭での食に関する家事で最も簡便化したい工程は、「献立の考案」（29.4%）が最も高く、次いで「調理」（19.8%）、「後片付け」（18.2%）の順となった。また、年代が低くなるほど「献立の考案」を簡便化したいとする割合が高くなる傾向となった。

○家庭で実践している食の簡便化：年代を問わず「冷凍食品を活用」が最多

食の簡便化のために家庭で実践していることは、「冷凍食品を活用」（44.4%）が最も高く、次いで「レトルト食品・缶詰・瓶詰を活用」（34.5%）、「品数・材料を少なくする」（32.3%）の順となった。

全ての年代で「冷凍食品を活用」の回答割合が最も高く、ほとんどの年代で4割を上回った。20代は「品数・材料を少なくする」（39.4%）が他の年代よりも特に高い割合となった。

○購入量の多い冷凍食品：「そのまま食べられる調理食品」「水産加工品」が上位

家庭で最も購入量が多い冷凍食品は、「そのまま食べられる調理食品」（18.3%）が最も高く、次いで「水産加工品」（15.8%）、「肉類」（13.3%）の順となった。

○今後購入量を増やしたい冷凍食品：20～30代は“素材系の冷凍食品”が高い割合

今後、購入量を増やしたいと思う冷凍食品は、「そのまま食べられる調理食品」（27.2%）が最も高く、次いで「調理を要する調理食品」（23.6%）、「葉物野菜」（21.4%）の順となった。20～30代は“素材系の冷凍食品”（「葉物野菜」「肉類」「根菜野菜」「軽量野菜」）が他の年代よりも高い割合となった。

■詳細は、添付のレポートをご参照ください。

消費者動向調査（令和4年1月）

～家庭での食の簡便化について～

※今回調査における「家庭での食の簡便化」とは、家庭での食に関する家事（献立の考案、食材の購入、調理、後片付け等）の全てまたは一部の工程で手間、時間を省くことをいう。

～目次～

I. 家庭での食の簡便化を意識している理由	P 3
II. 家庭での食に関する家事で最も簡便化したい工程	P 4 ～ 5
III. 食の簡便化のために家庭で実践していること	P 6
IV. 家庭で最も購入量が多い冷凍食品	P 7 ～ 8
V. 今後、購入量を増やしたいと思う冷凍食品	P 9 ～ 10

○調査概要

- 調査時期: 令和4年1月
- 調査方法: インターネット調査
- 調査対象: 全国の20歳代～70歳代の男女2,000人(男女各1,000人)
※インターネット調査であるため、回答者はインターネット利用者に限られる。

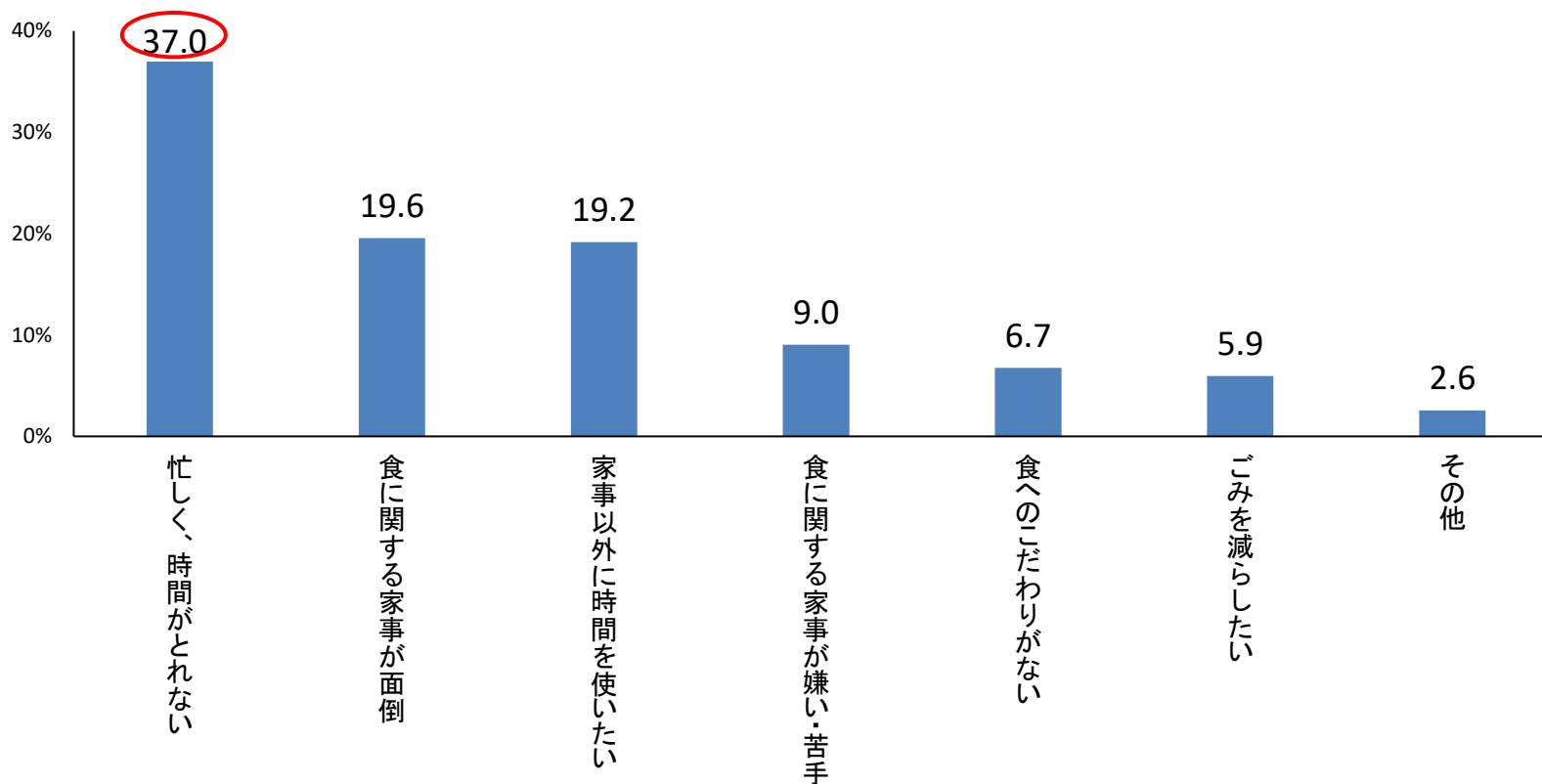
<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 農林水産事業本部 情報企画部(担当: 赤羽根、米山) TEL: 03-3270-5585
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー

I. 家庭での食の簡便化を意識している理由

・家庭での食の簡便化を意識している理由は、「忙しく、時間がとれない」(37.0%)が最も高く、次いで「食に関する家事が面倒」(19.6%)、「家事以外に時間を使いたい」(19.2%)の順となった。

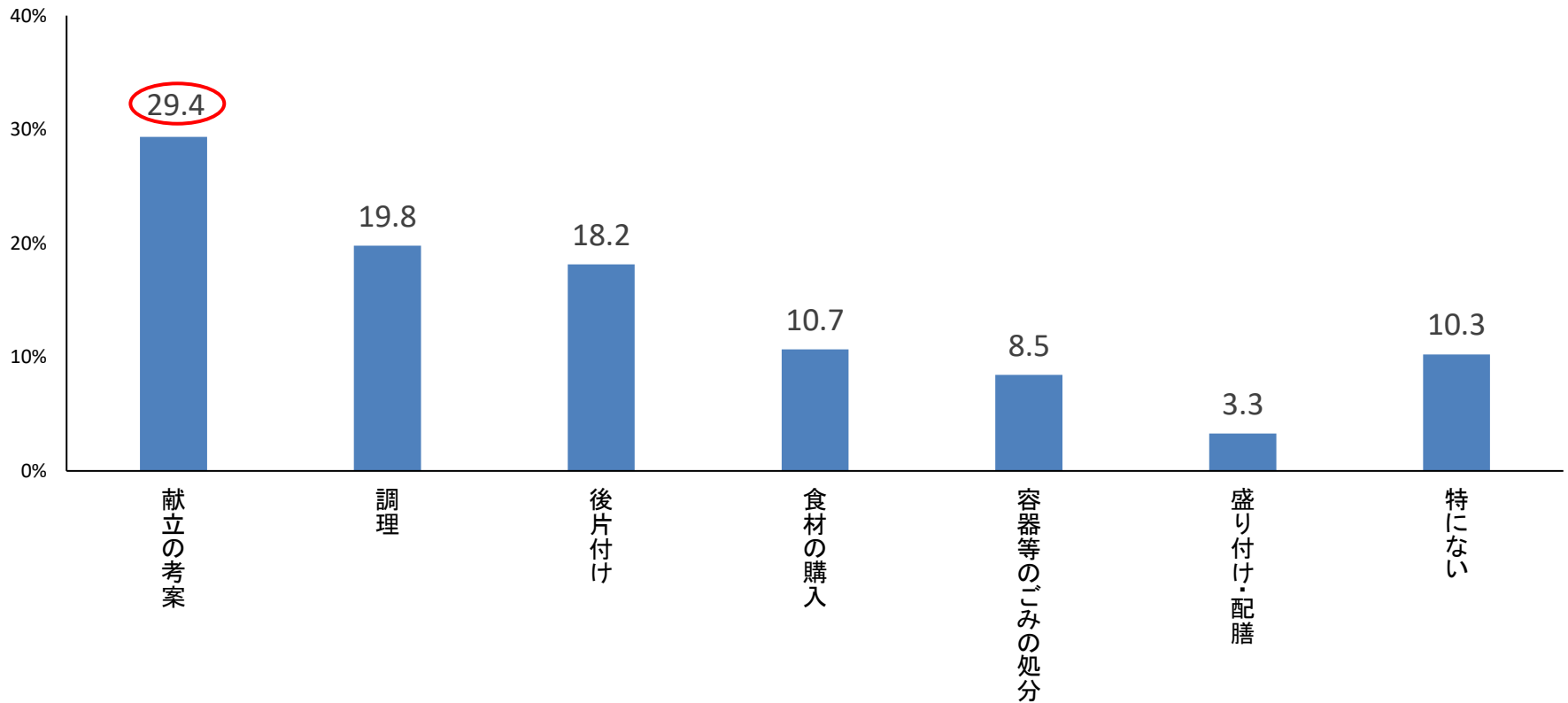
(1つ回答/食に関する志向調査、問1 現在の食の志向で「簡便化志向」を回答した方)



Ⅱ.家庭での食に関する家事で最も簡便化したい工程

・家庭での食に関する家事で最も簡便化したい工程は、「献立の考案」(29.4%)が最も高く、次いで「調理」(19.8%)、「後片付け」(18.2%)の順となった。

(1つ回答)

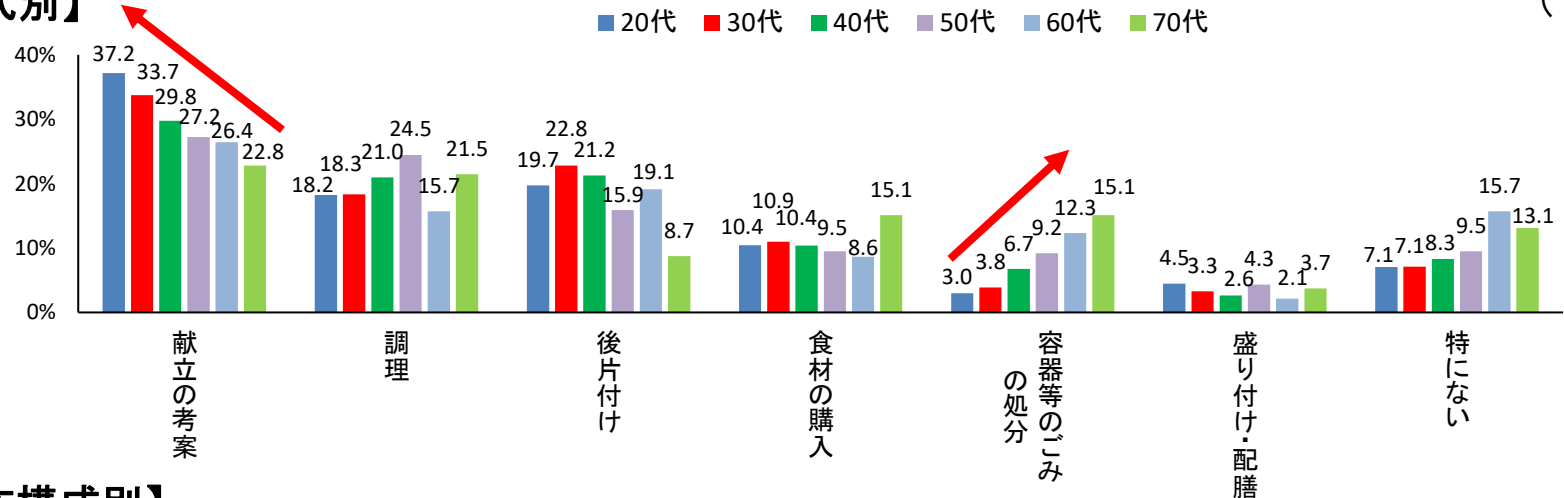


Ⅱ. 家庭での食に関する家事で最も簡便化したい工程(年代別、家族構成別)

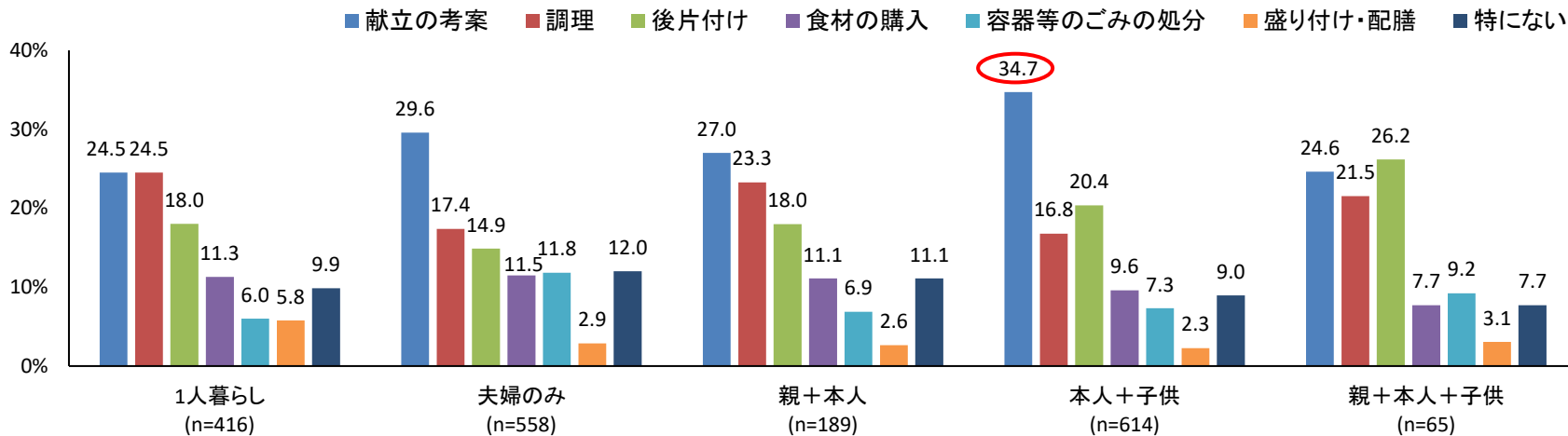
- ・年代別では、年代が低くなるほど「献立の考案」を簡便化したいとする割合が高くなる傾向となった。他方、「容器等のごみの処分」を簡便化したいとする割合は年代が高くなるほど高くなる傾向となった。
- ・家族構成別では、“本人+子供”世帯は「献立の考案」が他の世帯よりも特に高い割合となった。

【年代別】

(1つ回答)



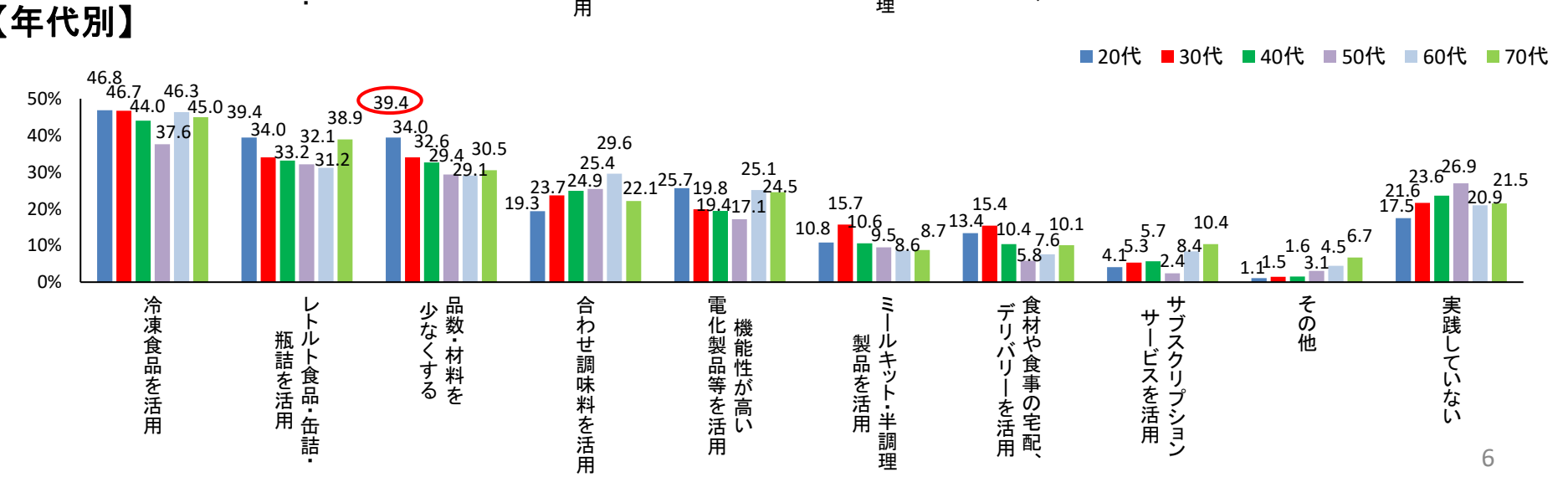
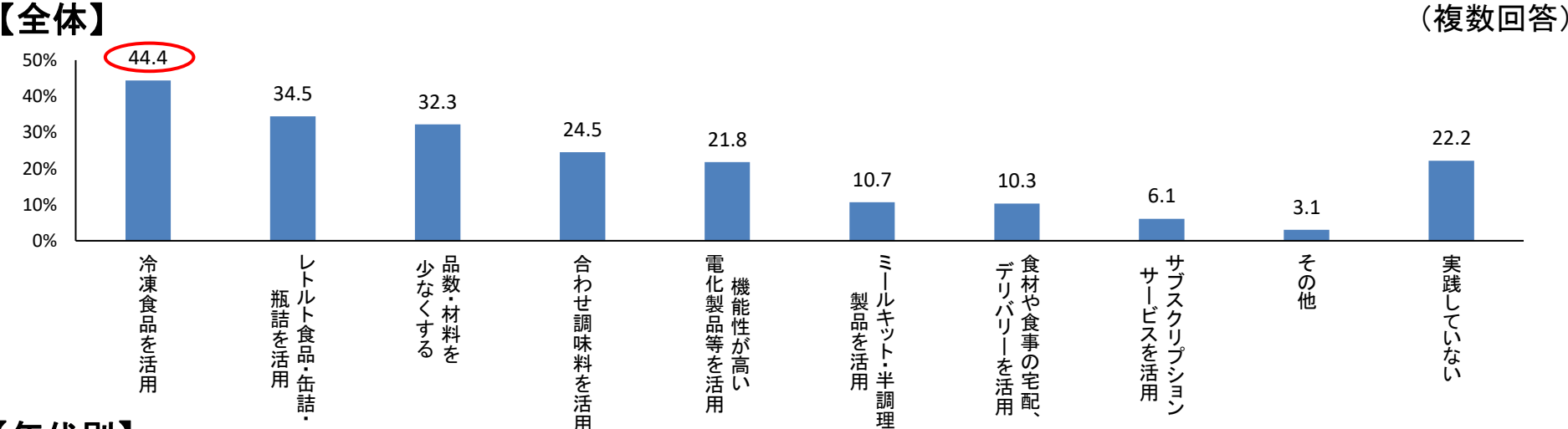
【家族構成別】



Ⅲ.食の簡便化のために家庭で実践していること

・食の簡便化のために家庭で実践していることは、「冷凍食品を活用」(44.4%)が最も高く、次いで「レトルト食品・缶詰・瓶詰を活用」(34.5%)、「品数・材料を少なくする」(32.3%)の順となった。

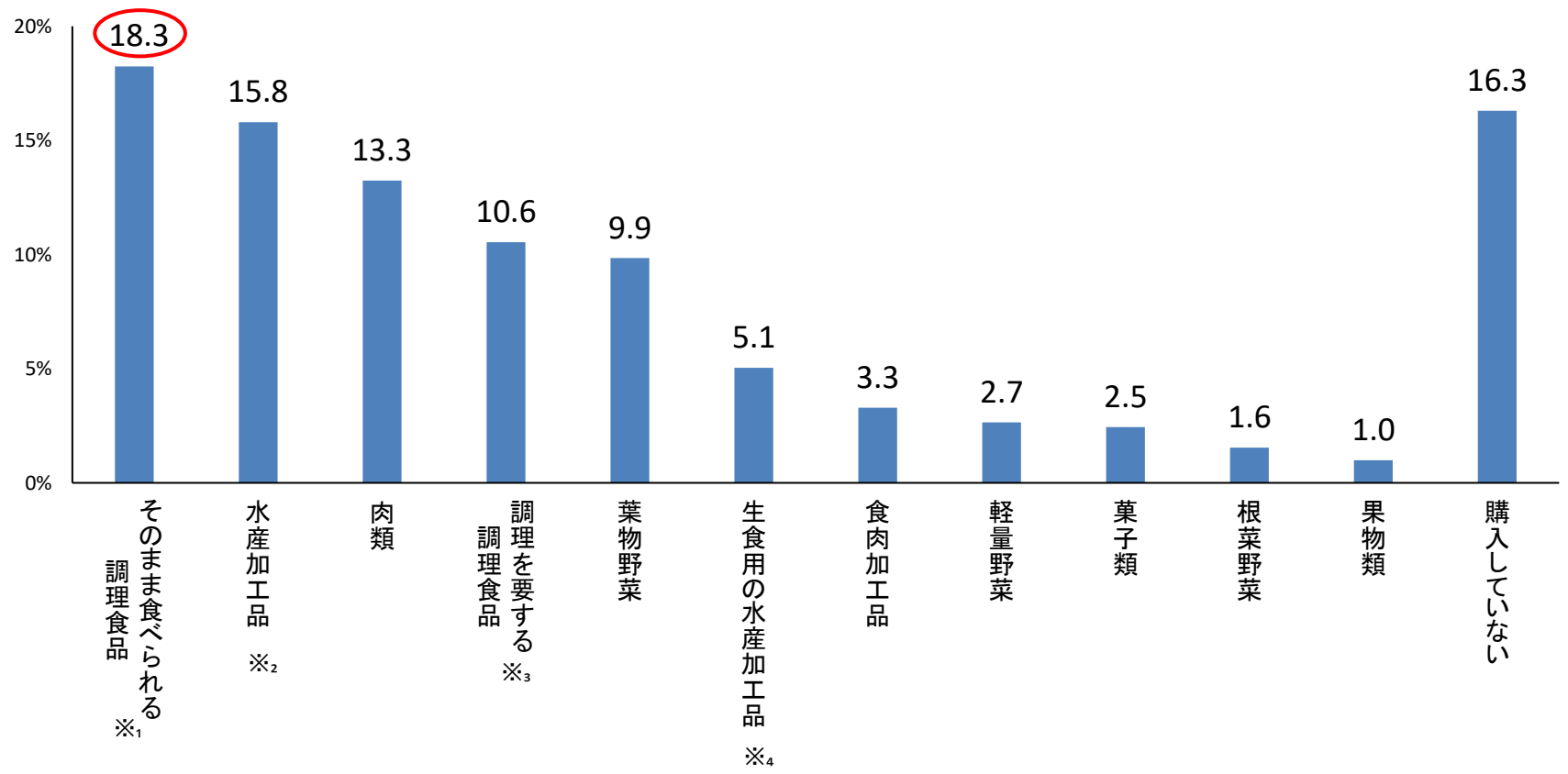
・全ての年代で「冷凍食品を活用」の回答割合が最も高く、ほとんどの年代で4割を上回った。20代は「品数・材料を少なくする」(39.4%)が他の年代よりも特に高い割合となった。



IV. 家庭で最も購入量が多い冷凍食品

・家庭で最も購入量が多い冷凍食品は「そのまま食べられる調理食品」(18.3%)が最も高く、次いで「水産加工品」(15.8%)、「肉類」(13.3%)の順となった。

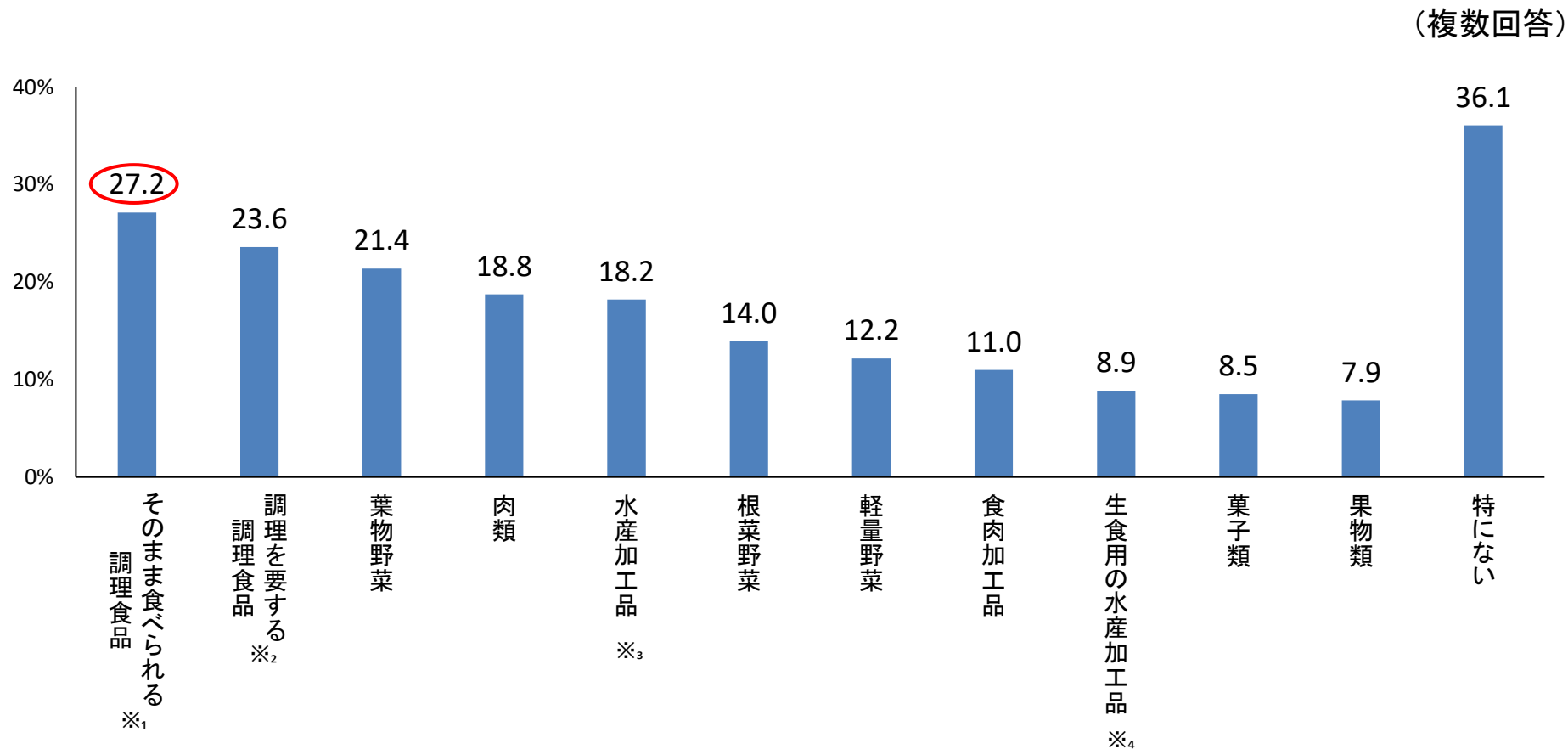
(1つ回答)



※₁ 電子レンジや湯煎で解凍すればそのまま食べられる炒飯、たこ焼き、丼の具等
 ※₂ 加熱を要する切り身、干物等
 ※₃ 焼き餃子、揚げる前の衣が付いた揚げ物類
 ※₄ 刺身、タタキ、ネギトロ等

V. 今後、購入量を増やしたいと思う冷凍食品

・今後、購入量を増やしたいと思う冷凍食品は「そのまま食べられる調理食品」(27.2%)が最も高く、次いで「調理を要する調理食品」(23.6%)、「葉物野菜」(21.4%)の順となった。

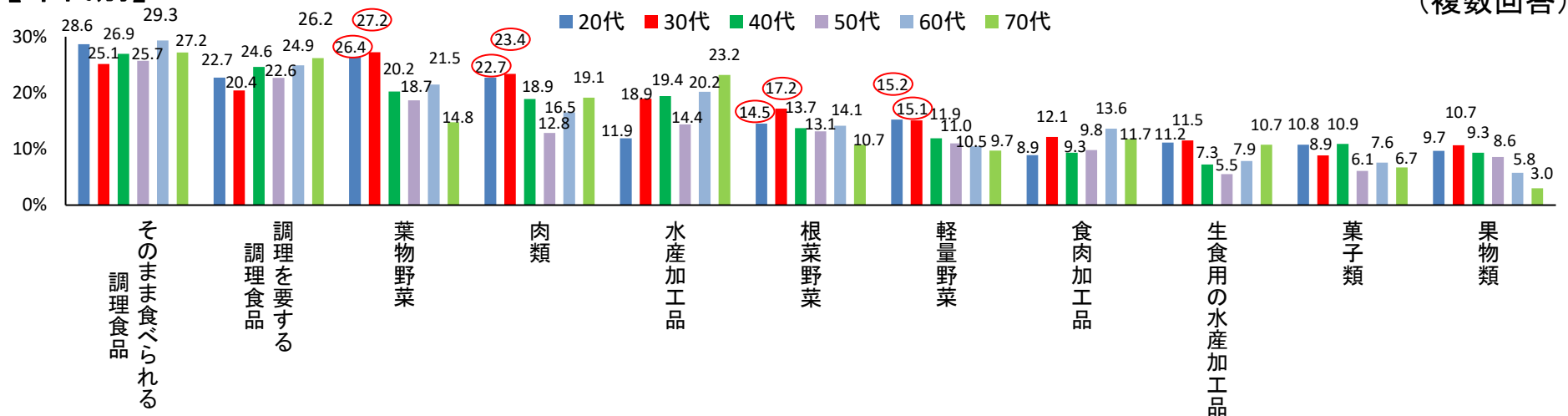


- ※₁ 電子レンジや湯煎で解凍すればそのまま食べられる炒飯、たこ焼き、丼の具等
- ※₂ 焼き餃子、揚げる前の衣が付いた揚げ物類
- ※₃ 加熱を要する切り身、干物等
- ※₄ 刺身、タタキ、ネギトロ等

V. 今後、購入量を増やしたいと思う冷凍食品(年代別、家族構成別)

- ・年代別では、20～30代は“素材系の冷凍食品”(「葉物野菜」「肉類」「根菜野菜」「軽量野菜」)が他の年代よりも高い割合となった。
- ・家族構成別では、「そのまま食べられる調理食品」は“親+本人”(33.3%)、“本人+子供”(28.5%)、“夫婦のみ”(26.7%)の世帯で他の冷凍食品よりも高い割合となった。“1人暮らし”世帯は「葉物野菜」が他の冷凍食品よりも高い割合となった。

【年代別】



【家族構成別】

